

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099500029		
法人名	医療法人 昌和会		
事業所名	グループホーム元気の里		
所在地	田川郡糸田町下糸田2495		
自己評価作成日	平成29年9月22日	評価結果確定日	平成29年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成29年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・医療法人との密接な連携による専門的なケア ・笑顔があふれる毎日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成28年9月、運営が地域の医療法人に代わったが、開所以来掲げた具体的で分かりやすい理念を玄関や共有空間に掲示し、毎日朝と夕の申し送り時に唱和している。入居者の現状に応じたケアが実践され、トイレでの排泄の支援が立位保持のリハビリとなったり、退院時紙おむつだった入居者がリハビリパンツとなり、せん妄があり居室の隅で放尿していた入居者は、職員の試行錯誤で居室の角に設置したポータブルトイレで排尿している。管理者は、今後はルールに沿ったケアの実践に努めたいと、母体法人の感染症の認定看護師を講師に研修会を予定している。神幸祭の神輿を縁側から声援したり、町主催の夕涼みや認知症カフェの参加することで地域との交流を継続しながら、医療と介護の連携で、更なる理念の実践が期待できるホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム元気の里**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「地域との交流を大切にします」と掲げ、地域の催しなどに参加させていた	開所以来の理念を、玄関や共有空間に掲示し、毎日朝と夕の申し送り時に唱和している。新管理者も具体的で分かりやすい理念を具現化するために、就任にあたり職員にルールに沿ったケアの実践を話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホールから見える通行人との日々の挨拶を交わしている	ホーム前を通る神幸祭の神輿に縁側から声援したり、隣接する前施設長宅の庭で開催された町主催の夕涼み会に参加している。地域から100名もの参加があり、「先生、教え子です」などの声かけがあった。子ども110番の掲示も継続され、今後は小学生の社会科見学を受け入れる予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会など開きたい思いはあるが実行に至っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や包括支援センターの方に参加していただき、意見を募っている	適切な参加者で定期的に行われ、会議録を整備している。入居者の状況や行事、職員研修などを報告し、今後は休日の緊急受診体制づくりについても検討している。	運営推進会議の設置目的に鑑み、会議録を玄関などで公表されるようお願いいたします
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている	地域包括支援センターが開所した認知症カフェに入居者と参加している。新管理者として、入居者の状況や空き室情報を交換し、より良い連携を築く予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指導や勉強会などをおして身体拘束への理解を深めるよう努めている。玄関の施錠は夜間を除き行っていない	身体拘束に関する具体的な行為を理解している。センサー利用者もあり、利用目的や期間などを、家族に説明や同意をお願いする予定である。外出傾向のある入居者もあるが、見守りや安心できる声かけで、玄関までで外に出ることはない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス事業者協議会などが行っている講習に積極的に参加し、学んだ内容を職員にフィードバックするよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などには参加したものの、活用する機会が今のところない	現在まで、日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用はない。新管理者は管理者研修で学んだ成年後見制度についての資料を整備し、活用する予定である。	日常生活自立支援事業に関するパンフレットを整備し、事業内容や成年後見制度との違いについて、学習をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	心がけて行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を置き、要望などを常時募集している。口頭などで寄せられた意見については可能な限り対応するようにしている	週1~2回来訪する家族もあり、職員が声をかけて暮らしぶりを伝えている。又、毎月発行しているホーム便りで、日頃の状況を報告し、家族が意見を表出する機会を設けたり、意見箱を設置しているが、意見はない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフミーティングの場において職員一人一人に意見・提案を求めている	月1回のミーティングは率直な意見の交換の場となっている。白癬菌の治療薬を塗布する部分を明記し、終わったら利用者名を消すなど、全職員で統一したケアを目指している。今後は母体法人の感染症の認定看護師等を講師に研修会を予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については水準以上のものが出せるよう努力している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては当然、人権を尊重している。職員についての自己実現・社会参加などは今後の課題としたい	運営が昨年9月、地域の医療法人に代わり、今後はハローワークで募集し、人事課で採用する予定である。現在20歳から65歳の年齢に幅のある男女の職員が就労している。昼休みを交代で取り、希望するシフトや業務内容の交代も配慮されている。夜勤専従の職員もあり、排泄援助の統一に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	差別などが無いよう目配り・心配りを行っている	管理者研修で受講した人権研修の資料を参考に内部研修を予定している。今後は、母体医療法人の教育委員会主催の人権研修への参加も予定している。	介護職員の人権研修受講は必須であることから、内外人権研修の参加や伝達講習を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としては研修受講を推進したいところだが、現状では人員不足が深刻であり、その余裕がないのが実情である		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	なかなかその余裕や機会がなく、取り組んでいるとは言い難い		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族や入院先の担当者にお話を聞き、本人様の実像把握に努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の見学時からヒアリングを行い、出来る限りの把握に努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どうしてもお世話する立場に立ってしまい、左のような関係の構築が難しい		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、ご家族水入らずの場を作ってもらおうよう対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人とのかかわりの中で馴染みの場所の把握に努め、関わりができるよう努めている	友人が来訪したり、来訪した家族と外出し食事をする入居者もある。地域納涼祭や認知症カフェに参加したり、神幸祭の神輿に縁側から声援を送ったり、地域の方々との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごしてもらうときなどに、座る場所を利用者同士の関係性を考えて決めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が望まない場合も多く、なかなか関係が持ていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の言動などから把握に努め、出来る限り意向にそえるよう努めている	管理者研修ではセンター方式を活用し、入居者の意向をアセスメントしているが、入居者の状況に応じたアセスメントシートを活用し、更なる入居者の意向の把握に努める予定である。	把握した意向や情報を前回のアセスメントシートに印字の色を変えて加筆するなどの工夫で、意向の変化の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や機会があるときに情報の収集に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、記録することによって把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や本人の参加が難しく、職員間での話し合いだけになりがちである	入居者や家族の意向に沿って、施設長や介護計画作成担当者、職員等と担当者会議を開き、現状に沿った介護計画の作成や見直しをしている。せん妄があり居室内で放尿する入居者に部屋の隅にポータブルトイレを設置している。	適切なサービスを提供しているので、モニタリングしやすいように、具体的な時間帯や回数の記載を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	そのように努めている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部デイケアの利用などを行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用については今後の課題である		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の意見を基に受診医を決めている	母体医療法人院長が毎月来訪し、健康状態を把握している。調査日に熱発した入居者があり、採尿後早急に受診している。かかりつけ医の訪問診療もあるが、皮膚科などの専門医療機関受診は職員が同行し、随時家族に報告している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時気づいたことは報告を求め、早期に対応できるよう努めている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	そのように努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から看取りについての説明を行い、対応を検討している。	この1年は、看取りはないが、現在2名の看取り希望者がおられ、かかりつけ医との連携で看取りを支援する予定である。新管理者は看護職としての経験から、重度化と終末期の区別を踏まえ、どの段階を看取りとして家族と話し合いをするかを検討したいと話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は未実施である		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で対応方法は訓練している。地域との協力体制は今後の課題である	年2回の避難訓練を実施予定で、1回は職員の連絡網を使った訓練を実施している。行政指定の避難所も近く、職員が地元消防団員でもあり、地区区長も参加している運営推進会議で地域の協力をお願いする予定である。米や飲料水を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけており、機会に応じて指導している	入居者の状況に応じた声かけを実践している。調査時の訪室は、施設長が当該入居者に声かけて居室を案内するなど、丁寧な対応が行われていた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けのしかたに工夫をこらし、思いが表現できるよう努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われおろそかになりがちであり、今後の課題である		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みにおうじて服を選んでもらっている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の片付けや食卓の清拭などは手伝ってもらっている	昼食と夕食は法人厨房から配食されている。食前の口腔体操を全員で行った後、入居者の「いただきます」の挨拶で食事をしている。職員がスープの味を尋ねると、「微妙」と答えた入居者もあったが、職員の見守りや声かけで其々のペースで食事をしている。食後のランチョンマットの片付けやテーブルを拭いたり、職員と一緒に採って来た土筆のはかま剥きも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は記録をとり把握に努めている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	そのように行っており、口腔内の清潔保持に努めている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人その人の状態に合わせた対応を行っている	日中は時間やタイミングを見計らい、トイレでの排泄を支援しているが、トイレでの排泄が立位保持のリハビリとなったり、退院時紙おむつだった入居者が、現在はリハビリパンツを使用している。せん妄があり、居室の隅で放尿していた入居者は、職員の試行錯誤で居室の角に設置したポータブルトイレで排尿している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状態を把握し、解消に取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	諸所の都合により入浴のタイミングは決めさせてもらっている	週2回の入浴を支援しているが、希望に応じて入浴日を変更しているため、入浴を億劫がる入居者はいない。広い浴槽にゆったりと浸かってもらいたいと1日の入浴を3名としている。母体医療法人から譲り受けたキャスター付きシャワーチェアを活用し、入居者の負担軽減に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのように努めている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果などが書かれた用紙を誰でも閲覧できるようにしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳や食卓の拭き掃除などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状ではなかなか実現が難しい	認知症カフェに出かけたり、ドライブを兼ねて桜や紫陽花など季節の花見に出掛けたり、土筆取りやホーム周囲の田んぼを見に行くこともある。家族と外出する入居者もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルになるためなるべく遠慮していただいている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば検討している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのように努めている	ホーム前の田んぼに植えられた大豆が色付き、広い共有空間の掃き出しの窓から眺めることができる。玄関先はスロープ、玄関には丸椅子が置かれ、出入りや靴の着脱が容易である。居室が並ぶ中央廊下に3台の洗面所があり、清潔の保持に努めている。空調が管理された共有空間にはピアノが置かれ、職員の演奏で懐かしの曲を歌ったり、ソファで寛ぐ入居者もある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	努めているつもりである		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力をえて実行している	居室入口に名札が掲示され、ベットや筆筒はホームの備え付けであるが、写真やテレビ、日用品を持参し、居心地よい居室づくりをしている。どの居室も掃除が行き届き、清潔感に溢れている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり屋内に段差はない		